

1月22日(水) 16:30-17:30 沖縄県における臓器提供に関する 家族の同意・意思について考える



本研究は、臓器移植が人の生命に関わる重要な医療である一方で、ドナー不足により救えない命があるという課題を、沖縄の地域においていかに解決していくか、ということを経験的・政策的・心理学的観点から考察するものです。自分や家族が、臓器移植を必要とする病気になることや、臓器を提供する場面に遭遇することは、思いがけない突然のことで、想像が付き辛いかも知れません。

今年度は、一般市民の方に心理実験に参加していただき、臓器提供に関する家族の同意の意義を考察するための基礎的研究を行いました。その概要をご紹介しますこと等を通じて、沖縄県における臓器提供の現状について広く市民が知る機会となればと思います。

登壇者

富山 侑美 とみやま ゆみ

(沖縄大学経法商学部専任講師)

名城大学法学部卒、同大学院法学研究科博士前期課程修了(修士:法学)、北海道大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学(博士:法学)、北海道大学大学院法学研究科助教を経て、現職。専門は刑法、医事法。

仲間 貴享 なかまた かゆき

(沖縄県保健医療福祉事業団 臓器移植コーディネーター)

趣味:ゴルフ、スポーツ観戦。好きなこと:飲み会。平成28年、沖縄県保健医療福祉事業団に採用。平成29年から沖縄県臓器移植コーディネーターとなり、以降県内すべての臓器提供事例に関わる。前職は、障がい者支援施設に勤務。モアイ仲間が骨髄ドナーになったことで移植医療に関心を持ち、臓器コーディネーターという聞かない職業にチャレンジした。

吉川 麻衣子 よしかわ まいこ

(沖縄大学人文学部教授)

琉球大学法文学部卒、九州産業大学大学院国際文化研究科博士後期課程単位取得満期退学(博士:文学)。教育や医療領域での臨床経験を積み、現職。沖縄戦を生きぬいた人びとの語り合いの場を創設して20年が経過。角膜移植を受けた父親の影響で移植医療に関心を持ち、研究に参加。専門は臨床心理学。臨床心理士・公認心理師。

(司会) **島田 尚徳** しまだ しょうとく

(沖縄大学経法商学部准教授)

千葉大学法経学部卒、同大学院社会科学研究科修了(修士:総合政策)、琉球大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。新聞社やシンクタンク勤務を経て、現職。専門は行政学や地方自治論、公共政策論。

研究概要

【2024年度 沖縄大学全学研究プロジェクト班】

研究名: 沖縄県の臓器移植に関する法・政策・倫理—より多くの命を救うために—(1年目)

対象地域: 沖縄県

研究分野: 法学、行政学、倫理学

研究内容: 移植でしか救命出来ない命を救うための臓器提供が十分ではない現状に鑑み、献腎移植全国1位となったことのある沖縄県での臓器提供推進の取り組みを分析し、政策提言を行うことで、よりよい医療環境の構築を目指す。

プログラム

16:30-16:35 開始・司会による研究メンバー紹介(島田)

16:35-16:50 研究の趣旨説明(富山)

16:50-17:05 心理実験の概要(吉川)

17:05-17:20 沖縄県における臓器提供の現状について (仲間)

17:20-17:30 質疑応答・終了

◆◆◆「地域研究公開講座」について◆◆◆

沖縄大学地域研究所には、本学教員及び特別研究員、その他の研究協力者で構成された研究班があります。それぞれ、地域の役に立ちたいという想いで地域研究に取り組んでいます。

本研究活動をより地域に開かれたものとしていくことを目的とし、全ての研究班が地域研究公開講座を実施しています。研究班活動の内容や対象とする課題等について、皆様に分かりやすくご紹介させていただきます。今年度は全9班の地域研究公開講座を開催します。(裏面参照)

★視聴無料★ 1/20(月)までに要事前申込

申込先【Googleフォーム QRコード】

本学HPの「イベント」からもお申込みいただけます。氏名・連絡先・所属等、必要事項を入力の上送信してください。お申し込みされた方には、1/21(火)までに、申込受付メールを送信します。メールが届かない場合は、1/22日(水)14時までに沖縄大学地域研究所までお問い合わせください。

※ 講座終了後、アンケートの回答にご協力ください。申込受付メールで 回答フォームURLをお送りします。



問い合わせ先: 沖縄大学 地域研究所
住所: 沖縄県那覇市市場405番地
沖縄大学アネックス共創館2階
窓口: 平日8:30~17:15(12:00~13:00 閉室)
Tel: 098-832-5599
Mail: chicken-staff@okinawa-u.ac.jp

2024年度 沖縄大学地域研究公開講座 一覧 (12月17日現在)

※詳細が決まり次第、本学HPよりご案内いたします。

	開催予定日	研究代表者名	研究名	研究内容要約
1	7月10日(水) 13:00~14:20	王志英 (国際コミュニケーション学科)	沖縄県、離島における中国語標識・案内板確認について	沖縄県内外、離島における中国語、英語標識・案内板について調査し、間違っていた中国語や英語を訂正する。
2	8月26日(月) 16:00~17:30	系数 哲 (経法商学科)	沖縄県を中心にした「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる総合的研究	沖縄本島および離島をベースにしながら、様々な災害概念を対象として幅広く地域研究を行い、「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる文理融合の学際的・総合的研究を進めていく。
3	9月13日(金) 17:00~18:30	西 章 (福祉文化学科)	沖縄大学「いのちの未来の平和学」プロジェクト	2022年2月末のウクライナ戦争から始まった国際秩序の揺らぎもあり、沖縄大学が「平和と反戦」を強く発信していくような流れを作っていきたい(学び舎)として平和教育を実践していくことを目的としている。沖縄大学の有志が集まって月一回のペースで地域市民の方々にも門戸を広げ、フォーラムやワークショップを企画運営し、沖縄大学から「平和と反戦」の実践活動を発信していく。
4	11月20日(水) 15:00~16:30	盛口 満 (こども文化学科)	離島における教育連携	地理的に不利な離島地域と大学機能(大学生による出前授業と地域交流)を連携することにより、「離島における教育機会」の課題を整理し、同時に大学機関で今後どのように地域と連携できるか模索する。
5	12月4日(水) 16:00~17:00	若林 千代 (経法商学科)	沖縄における地域史とオーラルヒストリーの方法—戦後史研究の実践から問い直す—	沖縄戦後史研究では、オーラルヒストリーの方法と実践に対する学術的検証は未だ十分とは言い難い。本研究では、オーラルヒストリーの実践を通じて研究史を再検証しつつ、地域史の新たな方法を探究する。
6	1月16日(木) 14:40-16:10	宮良 恵美 (管理栄養学科)	島コショウの伝統的な栽培・利用方法とその食品機能を活かした商品開発	島コショウ(ピーパーズ)は、沖縄、特に八重山諸島において古くから栽培され、地域住民に親しまれてきた香辛料であり、その芳醇な香りと健康効果が注目され、近年では全国的に再評価されている。島コショウの有用成分分析や、その成果を活かした商品を開発する。
7	1月22日(水) 16:30-17:30	富山 侑美 (経法商学科)	沖縄県の臓器移植に関する法・政策・倫理—より多くの命を救うために—	移植でしか救命出来ない命を救うための臓器提供が十分ではない現状に鑑み、献腎移植全国1位となったことのある沖縄県での臓器提供推進の取り組みを分析し、政策提言を行うことで、よりよい医療環境の構築を目指す。
8	2月1日(土) 13:30-16:00 ※土曜教養講座予定(対面)	豊川 明佳 (経法商学科)	沖縄の地域産業を牽引する企業におけるブランド志向の実践とアクションリサーチ	本研究は、ブランド・アイデンティティの「共創」を中心に据えたコーポレート・ブランディングの実践を行う沖縄県内の企業を対象とし、市場志向からブランド志向への変革と実践へ向けての一連のプロセスを考察する。
9	2月15日(土) 14:00-16:00	宮城 能彦 (こども文化学科)	琉球・沖縄共同体の源流と変遷の研究	現在に直接つながる琉球・沖縄の「共同体」は農耕が始まった12世紀から15世紀のグスク時代に始まると言われている。その起源と変遷(特に近世と近代)を考古学と歴史学と社会学の視点から明らかにする。